

第48回日本・ASEAN経営者会議 (AJBM) 開催

日・ASEANの未来価値共創に向けて
～サステナブルな社会の構築と人づくり～

経済同友会は12月7～9日の3日間にわたり、第48回日本・ASEAN経営者会議 (AJBM) を開催した。会議では、これからの時代を展望した日・ASEANのパートナーシップのあり方について各国企業経営者が議論を行い、2023年の日本・ASEAN友好協力50周年、また2024年に開催予定の第50回AJBMという二つの節目に向けて、日・ASEANの関係強化のための機運醸成に取り組むことを確認した。



開会式で挨拶する
櫻田謙悟代表幹事

全体概要

第48回AJBMは、3年ぶりの日本主催、3年ぶりに実会場を設けたハイブリッド方式で開催され、150人あまりの企業経営者が参加した。

全体テーマは「日・ASEANの未来価値共創に向けて～サステナブルな社会の構築と人づくり～」である。

2日目の12月8日に二つのパネルディスカッションを設け、活発な議論を行った。まず、国際社会の分断、AI・自動運転など先端技術の社会実装といった変革の中で、各国が自らの将来像をどう描いているか、そしてそのビジョンの実現に向けて、どのような課題・障壁に直面しているかを議論した。

その上で、経済・社会環境の変化に適應する上で、各国が人材に関して抱えている課題や日・ASEANによる人材育成・交流の可能性を議論した。

また、ASEAN各国で社会変革をリードするスタートアップ経営者のパネルを設け、それぞれのビジネスモデルや各国の社会的課題の現状についても共有を図り、日本とASEANが現在進行形の変化を共に乗り越えていくためのアイデアについて、多方面に及ぶ意見交換が行われた。

パネルディスカッション I

サステナブルな社会の
実現に向けた日ASEAN協力

～現下の混乱を乗り越え、
新たな10年を切り開く



山本京大大学院客員教授

ファシリテーターの山本康正京都大学大学院客員教授は、気候変動・エネルギー危機・経済安全保障など、全ての課題にテクノロジーがかかわっていること、この課題解決に向けた協業を促進するために、日本とASEANが将来に対するビジョンを共有することが必要だと指摘し、議論を促した。

これを受けてパネリストからは、コロナ禍からの回復、気候変動とエネルギー転換、DXなどに対応するための社会資本の強靱化、中小企業や既存産業の強化を通じた社会全体の底上げ、ASEANの一次産業の競争力強化、アジ

ア発スタートアップのグローバル展開支援などの課題が指摘された。

また、イノベーション基盤と技術力はあるものの高齢化が進む日本と、機会を求める若い人材が豊富なASEANの間に、互恵的・相互補完的な関係が成り立つことへの期待が示された。

そして、さまざまな協業を具体化するには、日本とASEANが地域の将来像やこれからの社会によって立つ原則について認識を共有することや、多層的・双方向的な人材交流によって、お互いの強み・弱みを学び合うことが重要という点で意見が一致した。

パネリストの間下直晃副代表幹事は、日本の若者の海外留学が減少していることに懸念を示し、海外、特にASEANへの留学を増やすためのトレンドづくりが必要だと提案した。



間下副代表幹事

パネルディスカッションⅡ

人材のバリューチェーン構築に向けた日ASEAN協力

～人材の育成・活用・還流のバリューチェーンを創り出す



一條IMD教授

ファシリテーターの一條和生IMD教授は、日本は既に製造業、医療・介護分野などでASEANの人材に依存しており、今後一層、ASEANとの人材のバリューチェーンを必要としていくと指摘。一方で、世界的な人材獲得競争において、日本には処遇面をはじめ競争力が無いことを最大の課題点として挙げた。その上で、日本がASEANとの新しいバリューチェーンを求めるならば、まず日本が変わり、よりオープンになる必要があると強調した。

パネリストからは、ITやヘルスケア分野での人材不足、働き手のスキルと職のミスマッチ、リスキングを行う体制の不足などが足元の課題として挙げられた。

より長期的な視点では、日・ASEANが新しい人材のバリューチェーン構築を目指す目的は、イノベーションを起



堤アジアPT委員

こし、より良い社会をつくることであり、そのため課題解決やイノベーション創出を担える人材の育成が日・ASEANの共通利益だという議論が行われた。

また、これからの時代において、国も企業も人材を「労働者」ではなく「才能(Talent)」と見なし、長期的・戦略的な視座でマネジメントする姿勢が求められること、日・ASEANの協力を議

論する上でも、世界との競争やグローバルな展開を念頭におく必要があるとの指摘もあった。

パネリストの堤浩幸アジアPT委員(富士通執行役員)は、ASEANの人材面でのポテンシャルを、日本との協力を通じて最大化できるという展望を示し、共同で人材育成に取り組むため、お互いの信頼・理解を深めていくことが必要だと指摘した。

総括

平子 裕志

第48回AJBM 議長
アジアPT 委員長



日本との信頼関係や日本独自の価値観、経営哲学への期待は、今もASEANに根付いている。

しかし、日本・ASEAN友好協力50周年を機に、日本がASEANをリードし、支援するという一方的な関係か

ら、共に学び、競い、助け合い、成長を目指す対等なパートナーとして、より双方向的な形へ関係を見直す必要がある。

本会議の登壇者は日本とASEANの間に地域規模の人材の還流を促すことが双方の利益になると賛同した。また、会議参加者は、日・ASEANのパートナーシップを時代に即した形でアップデートし、一層強化することの必要性について認識を共有した。

経済同友会は今回の議論を通じて得られたビジョンと方向性を起点に、友好協力50周年に際して日本とASEAN、官と民とが共有すべきビジョンづくりに貢献していく。

第48回日本・ASEAN経営者会議(AJBM)プログラム概要

(役職は開催時)

12月7日(水)

■歓迎レセプション

来賓：青山 繁俊 日本貿易振興機構 理事

12月8日(木)

■開会式

開会挨拶：櫻田 謙悟 経済同友会 代表幹事

来賓挨拶：高木 啓 外務大臣政務官
(総理大臣メッセージ代読)

中谷 真一 経済産業副大臣

H. E. Mr. TUY RY 駐日カンボジア大使

基調講演：浅川 雅剛 アジア開発銀行 総裁
(オンライン参加)

導 入：平子 裕志 第48回AJBM 議長

■パネルディスカッションⅠ

※以下、日本企業・団体のみ掲載

持続可能な社会の実現に向けた

日ASEAN協力

～現下の混乱を乗り越え、新たな10年を切り開く

ファシリテーター：

山本 康正 京都大学大学院 客員教授

パネリスト：

間下 直晃 経済同友会 副代表幹事(ブイキューブ)

■ASEANスタートアップパネル

ファシリテーター：

本間 真彦 経済同友会 アジアPT 副委員長
(インキュベイトファンド)

■パネルディスカッションⅡ

人材のバリューチェーン構築に向けた

日ASEAN協力

～人材の育成・活用・還流のバリューチェーンを創り出す

ファシリテーター：

一條 和生 IMD 教授

パネリスト：

堤 浩幸 経済同友会 アジアPT 委員(富士通)

■総括・閉会式

日・ASEAN友好協力50周年、その先に向けて

進 行：平子 裕志 第48回AJBM 議長

(経済同友会 アジアPT 委員長)

12月9日(金)

■日本企業視察

・SOMPOケアユニバーシティ／

Future Care Lab in Japan

・ANA Blue Base